6　2007年度種雄牛現場後代検定調査牛の産肉成績について

ねらいと成果

兵庫県では産肉能力の高い種雄牛を選抜するため、種雄候補牛７頭の産子（検定調査牛）をそれぞれ16頭肥育し、その枝肉成績から育種価を算出することにより遺伝的能力を客観的に評価する現場後代検定を実施している。

2007年度は、2005年12月から開始した検定調査牛の肥育が終了し、丸富土井、照也土井、宮弘波、丸福土井の４頭は歴代トップクラスの肉質であった。2008年度には基幹種雄牛として県下一円に精液が配布されるので、優秀な肉質をもつ子牛の増産が期待できる。

内　容

検定調査牛は、肥育協力農家では県下の平均出荷月齢まで個々の飼養方法により、県の機関では去勢29か月齢、雌32か月齢を限度として表１に示す検定用飼料及び給与法で肥育している。2007年度は丸富土井、照也土井、宮弘波、豊松土井、福久土井、丸福土井及び北谷波の検定を行った。各種雄候補牛の去勢及び雌の枝肉成績を表２に、育種価（枝肉重量・脂肪交雑）の分布を図に示す。福久土井、丸福土井、北谷波の３頭は2008年４月に検定は終了しているものの、育種価はまだ出ていない。

検定成績によると、枝肉重量は豊松土井産子が少なかったものの、その他は平均的な値であった。脂肪交雑は丸福土井の産子が去勢、雌ともにBMS　No.の平均が8.0と最も高く、丸富土井、照也土井、宮弘波の産子も現在人気種雄牛として活躍している福芳土井の脂肪交雑と同等であった。

また、ロース芯（しん）面積は丸福土井が平均53.57 cm²と最も大きく、その他の産子も大きなものが多かった。

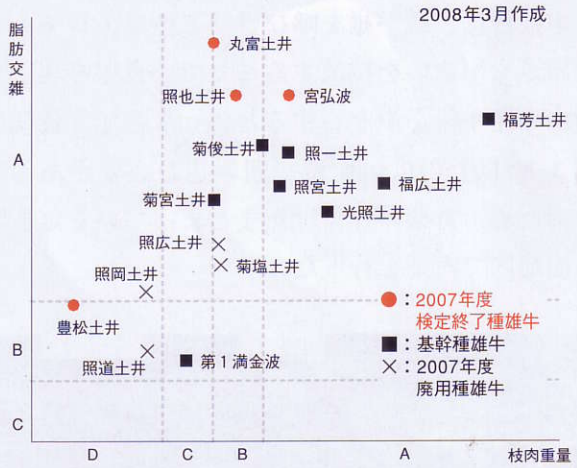
今後の方針

今回の検定成績では脂肪交雑の優れた種雄牛が多かったので、増体性の良い雌牛と交配することで、質と量を兼ね備えた肥育牛の生産が期待される。

岩木　史之（北部農技セ・畜産部）
（問い合わせ先　電話：079-674-1230）

表1　検定用飼料及び給与法

濃厚飼料	加熱圧べん大麦(%)	加熱圧べんとうもろこし(%)	一般ふすま(%)	大豆粕フレーク(%)	給与月齢	給与量(kg/頭)
前期	0	50	40	10	10-16	2.0-4.5
中期	15	50	30	5	17-23	5.0-7.0
後期	25	50	20	5	24-31	8.0-8.5
粗飼料	チモシー乾草				10-15	3.5-1.5
	稲わら				15-31	3.0-1.0



A：上位1/4以上、B：平均～上位1/4、C：平均～下位1/4、D：下位1/4未満

図　種雄牛の育種価（枝肉重量・脂肪交雑）分布

表2　2007年度検定成績

検定種雄牛名		丸富土井		宮弘波		照也土井		豊松土井		福久土井		丸福土井		北谷波		参考：福芳土井	
調査牛性別（頭）		去：8	雌：7	去：6	雌：9	去：9	雌：6	去：14	雌：3	去：12	雌：3	去：12	雌：4	去：8	雌：8	去：8	雌：7
枝肉成績	枝肉重量(kg)	383	357	362	376	373	358	377	315	375	358	369	358	401	363	405	398
	ロース芯面積(cm²)	49	55	48	58	55	54	47	43	45	48	53	57	47	46	48	55
	バラ厚(cm)	6.5	7.0	6.5	7.1	6.4	6.7	7.0	6.5	6.6	6.7	6.5	6.7	7.0	6.7	7.1	7.6
	皮下脂肪厚(cm)	2.1	2.8	2.2	2.6	2.0	2.6	2.0	2.4	2.0	3.0	2.0	3.0	2.8	3.1	2.9	3.3
	推定歩留(%)	73.4	74.3	73.5	74.7	74.3	74.0	73.7	73.2	73.0	74.0	74.0	74.0	71.2	73.0	72.6	72.6
	脂肪交雑(BMSNo)	5.1	7.9	6.2	6.7	5.7	7.5	5.2	5.3	6.0	6.0	8.0	8.0	5.0	5.0	5.4	4.8
	枝肉規格 A-5		4		2	2	2	1		1	1	7	2		1		2
	枝肉規格 A-4	5	2	4	6	4	3	9	2	7	1	5	2	3		3	5